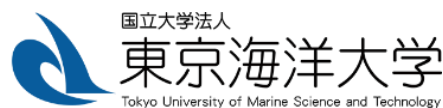


令和 7 年 5 月 30 日

Press Release



市民科学が捉えた「都会に暮らすクジラ」——東京湾で 30 頭以上のスナメリの群れを初確認

ポイント

- ✓市民科学の力を使って東京湾における希少種のスナメリの生態の一端が明らかにされた。
- ✓東京湾に生息するスナメリは湾奥部（浦安市～市原市沖）を好むことが明らかになった。
- ✓通常は単独で行動することが多いスナメリが、東京湾内では複数で行動する傾向があることが示唆された。特に 2024 年 9 月には、30 頭以上のスナメリが一度に確認され、東京湾内では史上最多、日本国内でも 3 番目に多い記録となった。

〈研究の概要と成果〉

東京海洋大学の中村玄准教授らは、市民から提供された目撃情報をもとに、東京湾におけるスナメリの生態に関する調査を行いました。

- 2024 年 7 月から 2025 年 2 月までに寄せられた 41 件の目撃報告のうち、27 件がスナメリと確認されました。
- そのうち約 85%が 2 頭以上の群れで行動しており、東京湾ではスナメリが複数の個体で暮らしている可能性が示されました。
- 浦安市から市原市沖に多くの目撃が集中しており、東京湾奥部が重要な生息海域であると考えられます。
- 2024 年 9 月には、富津岬沖で 30 頭以上のスナメリの大群が確認されました。



東京湾内での鯨類の発見情報提供を依頼するポスター

〈背景と研究の意義〉

スナメリ (*Neophocaena asiaeorientalis*) は日本沿岸の浅海域に生息する小型のハクジラ類であり、人間社会の影響を受けやすく、IUCN（国際自然保護連合）のレッドリストでも絶滅危惧種に指定されています。小型で目立たず、吹気も不明瞭なことから、目視調査が困難な種です。

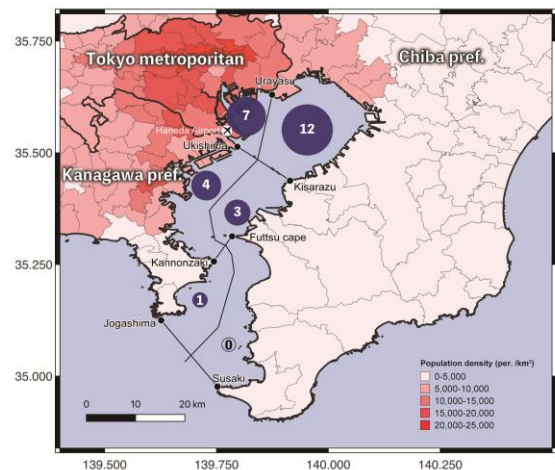
東京湾には空域制限があり空撮などの従来の調査は難しく、本学では練習船等を用いて独自に目視調査を3年以上続けましたが、発見はほとんどありませんでした。本研究では、市民科学という新たなアプローチを活用することで、都市湾におけるスナメリの分布や生態を初めて明らかにしました。

〈社会的意義〉

本研究は、都市に暮らすスナメリの生息実態を SNS の活用により明らかにした、国内でも先駆的な事例です。市民参加による科学調査が、絶滅危惧種の保全に果たす役割の大きさが示されました。今後も継続して情報収集を続けるとともに、目視調査等を併用することで、東京湾内におけるスナメリの姿をより詳細かつ科学的に明らかにし、本種の保全につなげていきます。

目撃情報をご提供くださった皆様にこの場をお借りして改めて感謝申し上げます。

本調査プロジェクトは継続中ですので、引き続き情報提供のご協力を皆様をお願い申し上げます。



首都圏の人口密度と東京湾内におけるスナメリの報告件数。

〈研究助成〉

本研究の一部は、公益財団法人中辻創智社の研究助成の支援により実施されました。

〈発表論文〉

タイトル: Citizen Science Illuminates a City-Dwelling Whale: A Report on the Large Aggregation of Narrow-Ridged Finless Porpoises in Tokyo Bay, Japan

著者: 中村 玄 (東京海洋大学)、廣瀬 亜由美 (東京科学大学)

掲載誌: Fishes (MDPI)

掲載年月: 2025 年 5 月 19 日

DOI: [10.3390/fishes10050237](https://doi.org/10.3390/fishes10050237)

〈お問い合わせ〉

(研究に関すること)

東京海洋大学 学術研究院 准教授 中村玄

E-mail : gnakam1@kaiyodai.ac.jp

(取材に関すること)

東京海洋大学 総務部 総務課 広報室

Tel: 03-5463-0355／E-mail: so-koho@o.kaiyodai.ac.jp